



あじさいが綺麗に咲き始める季節になりましたね。梅雨に入り、室内で過ごす時間が多くなるのではないのでしょうか。図書館には文庫や新書と呼ばれる小型の本があります。ジャンルとしては、小説や詩集、ノンフィクションや啓発本など様々で、なによりカバンに入れてもかさばりません(^^)お気に入りの本を見つけて、お家でゆっくり読書の時間を楽しむのはいかがでしょうか。

今月の展示コーナー



今月は国際地域学部 竹野先生監修のもと、先生の研究分野でもある文化人類学・イスラームより、“「宗教」と「食」で繋がる日本とアジア”をテーマに展示をしています。留学先でイスラーム教徒の女の子と出会った日本人の女の子の交流を描いた漫画「サトコとナダ」は、イスラーム教に対して知らず知らずの内に持っていた偏見や思い込みが払拭される一冊です。

イスラーム教は世界で約 20 億人もの人が信仰していると言われています。現在日本を訪れる観光客数は中国や韓国に加えて、イスラム圏からの観光客数も増加しています。ムスリム（イスラーム教徒を意味するアラビア語）には戒律により日常生活に様々なルールが定められているので、迎え入れる側にも配慮が必要です。来日したムスリムをおもてなしする際に知っておきたいイスラーム教の習慣や風習、戒律についてわかりやすく書かれた本を展示しています。一緒に異文化について理解を深めていきましょう。



先生のおすすめ本

📖「世界一シンプルな思考トレーニング 問題解決ドリル」

作者：坂田直樹 出版社：ダイヤモンド社

ビジネス領域で学ぼうと考えている1年生にお勧めの1冊です。
ビジネスに関する思考をシンプルにわかりやすく解説してくれて
います。

考え方を理解することができれば、スポーツの分野でも、商品の価値や
知識の創造に大きく役立つと思います。

最初は斜め読みでざっくりと、気になったところをじっくりと
何度も見ているうちに、思考が整理されるといった感じです。
ぜひ、読んでください。

鈴鹿大学国際地域学部 田中利佳先生



📖「あの人の国、「韓国」を知りたい。」

作者：ハングルスタート編集部 出版社：宝島社

2002年にサッカーの日韓ワールドカップが、開催されました。
このスポーツイベントを契機に多くの韓国の情報が日本に入るとになり、
私もどっぷり、韓国の魅力にはまりました。

そんな時、表紙の写真が気になり、手にとったのがこの本です。
それまで、日本にとって、「近くて遠い国」といわれていた韓国ですが、
似ているようで違うところが興味深く、両国を比較することにより、
改めて日本の文化を認識する機会となりました。

また、国家間の関係における文化の力についても考えさせられました。
その後、私は、この大学に来て韓国の先生や学生とお話をすると、
あの当時の韓流ブームのわくわく感が時々よみがえります。

今、学生の皆さんにとって、K-POPや韓国ドラマが、当たり前のように
とても身近な存在だと思いますが、一度韓国と日本の文化について考えてみるのも面白いと思います。

鈴鹿大学国際地域学部 富本 真理子先生



※図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。